

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	±0	+3	+3	令和8年度の目標	+1.0	+1.0	±0	-10	-10	+1.0	+1.5	+6.0
令和7年度の結果	-6	-4	-10	令和7年度の結果	-19.5	-15.0	+2.4	-2.7	+0.9	+4.5	-6.4	-5.2
令和6年度の結果	-10	-14	-24	令和6年度の結果	-2.2	-9.7	+4.1	+2.8	-6.6	-8.5	-9.0	-12.3
令和5年度の結果	-15	-15	-30	令和5年度の結果								

年度	令和7年度			令和8年度							
内容	成果と課題			目標				目標達成に向けた取組			
学校全体	【成果】国語は、校内研究において授業改善を行い、説明文を主流とした個別学習から全体交流の時間を確保し、学力向上のきっかけをつくることのできた。算数科は、習熟度に応じた学習内容を行った。また、パワーアップタイムにおいて、補充内容を指導することで児童の学力を伸ばすことができた。 【課題】○学力調査において、国語科では、「文章を書くこと」の得点率が低かった。「知識・技能」についても漢字の書き取りなど基礎学力の定着が課題となった。算数は、数値は低かったが、丁寧に問題を解くことで「数と計算」の学力を伸ばせると判断できる。			○基礎基本の定着を目指し、学び合い考えを深める力を育むことのできる授業の工夫・改善を行う。 ○家庭との連携による生活および主体的に学ぶ家庭学習における習慣の確立を目指す。				○基礎学力定着のため、国語においては個別最適な学びの学習を実践する。また、「文章を書く力」の向上を図るために授業の様々な場面において、書く時間を確保する。○家庭学習については、昨年度同様に①漢字練習②ドリルパーク(算数の基礎問題)を平日に行う。週末については自学ノートを活用し、学習意欲を高める。また、保護者と連携し、その他に児童自ら取り組む学習内容を授業中に提示し、自身の課題となる内容に取り組む環境をつくる。			
第1学年	国語では、説明文及び物語文の学習を中心に、児童がじっくりと考える時間をなるべく多く確保し、その中で自分の考えを友達と共有する活動を取り入れた。それにより、自分の考えを相手に伝えることの楽しさを感じ、読むことへの自信につながっていったように感じる。また、語彙の少なさを補うためにパワーアップタイムで言葉集めに取り組んだことで、文章を書く際に言葉の選択肢が少しずつ増えてきた。課題は、国語では文字を正しく使って相手に伝わりやすい文章を書くことである。算数では、文章問題の読み取りや、時計の読み方を正確にできるようにすることである。			国語は、自分の思いや考えを表そうとする意欲がより高まるように、語彙力や文の構造を身に付ける。いろいろな教科や学校生活全般の中で、表現する場を作っていく。算数は、好奇心や意欲がより高まるように、もの、ひと、こととの出会わせ方を工夫して授業を組み立てる。				国語は、①音読・漢字の学習を毎日継続して行う。言葉による伝え合いができる豊かな語彙を身に付けるために、学校図書館の利用など多くの文章に触れる場面を設定する。②教師の支援を取り入れつつ、主体的に学習を創るを経験する。経験や気づきを肯定的に捉え価値付けする。算数は、①子どもの意見や興味をもったものを中心に授業を組み立てる。②選択肢を設けたり、児童が調べてきたものを取り入れたりすることで、自ら判断して学習を進められるようにする。			
第2学年	国語では、説明文の文章を読み取り、文章の分りやすさや筆者の主張していることを読解方略を用いて考える学習を行ってきた。作戦を用いることで、考える視点や明確になり、児童一人一人が自信をもって考えることができていた。学力調査の結果より、読むことと書くことの正答率が低かった。普段から言葉に親しみ、初めて出会う文章も自分の力で読んでみようとする力を育むことが課題である。算数は、数と計算の正答率が低かった。基本の計算の順序をそらえたり、計算の手順で躓いている児童もあった。まずは、基本の計算を理解し、正確に解けるようになること、文章問題を読み、考える力をつけることである。			国語は、楽しみながら自分の思いを文で表せるよう、語彙を増やしたり表現の仕方を学んだりするなど、言葉に多く触れられる環境を作る。自分の思いや考えを、より詳しく相手に伝わる文で表現する活動を設定する。算数は、問題文を丁寧に読むことに注意する習慣をつける。基礎的な問題を確実に正解できるよう、日常的に復習に取り組む。				国語は、パワーアップタイムを活用して、遊びなどを通して語彙を増やす活動を行っていく。作文や日記を書く活動に日常的に取り組むことで書くことに抵抗をなくし、自分の思いを文で伝えることの楽しさを感じさせる。算数は、授業内やパワーアップタイムを活用して意図的に文章問題に取り組む時間を設定する。基礎的な問題が確実に身に着くよう、繰り返し既習内容の練習に取り組ませる。			
第3学年	国語及び算数では、大きく上回る成果を出すことができた。年間を通して、国語 説明文・物語文を中心に個別にワークシートを用意するなど、児童が自主的に考える授業を展開した。各単元で必ず時間と振り返りの時間を設けて行い、記録した。児童が自らすすんで学習に取り組むことで、児童の学力向上(読みの力)につながったと考えられる。課題は、算数である。基礎計算に対して、苦手としている児童が多く、既習事項が定着していない現状がある。発展問題(文章題)では、一定の成果が見られた。国語の読みの力が向上したため、それに伴って数値が伸びたことが考えられる。			算数は、①問題をよく読み、注意不足など小さな誤りをなくす。②復習の時間を確実に設け、既習事項の積み重ねを重視する。 国語は①少しずつ思考ツールの使い方を学び、考えをまとめられるようにする。②引き続き、作戦などの読解方略を活用し、文章理解に取り組む。				算数は、①引き続き、パワーアップタイムなど自分の課題に対して集中して取り組む時間を設定する。②復習の時間を確実に設けて、既習の内容を振り返り、身に付けさせる。 国語は①思考ツールを積極的に活用する。2～3時間を目安に思考ツールで自主的に考える時間を設定する。②○○作戦などの読解方略を活用して、文章を読みを深める。			
第4学年	国語については当該の目標数値を大きく上回る成果を出すことができた。年間を通して、国語 説明文・物語文を中心に思考ツールを活用して、児童が自主的に考える授業を展開した。各単元で必ず時間と振り返りの時間を設けて行い、成果物を記録した。児童が自らすすんで学習に取り組むことで、児童の学力向上(読みの力)につながったと考えられる。発展問題(文章題)では、一定の成果が見られた。国語の読みの力が向上したため、それに伴って数値が伸びたことが考えられる。			国語は、①言葉をよく覚え、語彙力をつける。②文章に親しみ、会話をする機会を多くもつ。 算数は、①自己の課題を見付け、その解決方法を見出すために、多くの問題に取り組む。②既習事項を忘れないように、積み重ねを重視した授業を展開する。				国語は、詩の暗唱や辞書を用いた言葉の意味調べを通して語彙を増やし、言葉の世界を楽しめる児童を育み、長文読解に苦手意識を感じることが減るような手だてをとる。何が大事なことなのかを考えながら話を聞くなど、要点をまとめられる学習を取り入れる。 算数は、引き続きパワーアップタイムを用いて自分の課題に集中して取り組む時間を設定する。普段の授業の始めの5分間に既習事項の振り返りタイムを取り、学習への不安を取り除くようにする。			
第5学年	算数については目標を達成することができた。その手立てとして、習熟度別学習で年間を通して、担当を変えずに指導してきた。児童の学力や意欲を理解した上での授業を展開できたり、質問しやすい雰囲気を作ったりして理解力を高められた。パワーアップタイムにおいても習熟度別に行い、発展・基本コースは文章読解問題に力を入れた。基礎コースについても基礎・基本の学力定着が行われた。課題は国語である。学力テストの結果を見ると全体では全国平均を上回っているが、「書く」の数値が下回っている。文章を書くことは好きであるが、文脈に沿った文章や相手に伝わる文章を書くことができていなかった。			算数は、①基礎計算に取り組む時間を設定し、定着を目指す。②復習の時間を確実に設け、既習事項の積み重ねを重視する。 国語は、①思考ツールを積極的に活用し、意欲的に書くことができるようにする。②読解方略を活用し、積極的に文章理解に取り組む。				算数は、①基礎計算に取り組む時間を設定する。児童が苦手意識のある計算を抽出して集中的に取り組む。パワーアップタイムを活用し、繰り返し行い問題に取り組む。②復習の時間を確実に設ける、特に新しい単元で活用する既習の内容を振り返る時間を設定する。 国語は①思考ツールを積極的に活用する。説明文・物語文の単元では、2～3時間を目安に思考ツールで自主的に考える時間を設定する。②読解方略を活用して、読みの視点を明確にし文章を読みを深める。			
第6学年	全国学力・学習状況調査の結果において、令和6年度(国語-10、算数-14)と比較し、令和7年度は国語-6、算数-4と改善が見られた。国語は、個人で考える時間を確保し、思考ツールやタブレットを活用して表現、交流したことで、読み取り力の向上が見られた。一方で、依然として全国平均を下回っており、基礎・基本の定着が課題である。特に国語の「書くこと」では、目的や意図に応じて構成を考え、根拠を明確にして表現する力の育成が必要である。また、漢字などの基礎的知識の定着にも課題がある。算数では、問題文の読み取りや計算過程の見直しを重視した指導の充実が求められる。			算数は、①問題をよく読み、注意不足など小さな誤りをなくす。②解答を導くために、考える過程を重視する。 国語は①書くことへの苦手意識を減らし、意欲的に書くことができるようにする。②目的に応じて文章の構成や書き表し方の工夫などの書き方を学ぶ。				算数は、①多くの問題を解き、見直しを確実にし、丁寧に解く習慣を身に付ける。②考える時間を保証し、自分の考えをまとめた上で、友達と共有し、問題の理解を深める。 国語は、①教科書や友達の文章などの書き方のモデルを使って書き方の工夫を意識する。自分の考えを書く際には、理由や根拠も合わせて書くことを意識する。②説明、記録、報告、感想など文の種類や、目的に応じた文の構成を考え、字数を決めて書く練習を行う。			